

2023年度

商工業振興に関する要望書



苫小牧商工会議所

The Tomakomai Chamber of Commerce and Industry

平素、苫小牧商工会議所の商工業振興への取組に関し、一方ならぬご指導、ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

地元企業を取り巻く環境は、少子高齢化による働き手不足に加え、新型コロナウイルス感染症拡大による多大な影響を受け、過去に例のない厳しい状況にあります。また、この状況が長期化することも危惧されます。

感染症対策と経済活動のバランスをとりながら、苫小牧の商工業振興が一層発展するために必要な事項を取りまとめましたので、令和5年度（2023年度）予算の編成に当たり、特段のご配慮を賜りますよう要望いたします。

2022年4月20日

苫小牧市長 岩倉 博文 様

苫小牧商工会議所

会頭 宮本 知治

目次

要望事項	関係機関			ページ
	国	北海道	苫小牧市	
1 重点要望事項				
(1) 「苫小牧都市再生コンセプトプラン」に基づいた駅周辺再整備の推進			○	1
(2) コロナ禍での事業継続に向けた支援	○	○	○	2
(3) 利便性向上に向けた道路整備等の推進	○	○		3
(4) 物流効率化に向けた港湾機能の強化・整備	○			4
(5) 北海道のエネルギー拠点としての次世代エネルギー発電施設等の関連事業の誘致による整備促進			○	5
2 新規要望事項				
(1) 「苫小牧都市再生コンセプトプラン」に基づいた駅周辺再整備の推進			○	6
(2) 苫小牧を支える企業への支援策			○	7
(3) まちづくり・防災対策	○		○	8
(4) 利便性向上に向けた道路整備等の推進	○	○	○	9
(5) 雇用・人材育成	○		○	10
(6) 脱炭素社会に向けた立地企業による新たな取組に対する支援並びに新産業の創出支援	○	○	○	11
(7) 北海道の電力供給が安定化するまで当面の原子力発電所活用	○	○	○	12
(8) 賑わい創出に係る行政手続きのワンストップ化			○	13
(9) 苫小牧近海における水産物養殖事業の可能性調査・研究		○	○	14
(10) 食と観光プロジェクトへの支援、イベントの再活性化			○	15
(11) 持続的な地域価値向上を図るための財源確保			○	16
3 継続要望事項				
(1) 苫小牧を支える企業への支援策	○	○	○	17
(2) まちづくり・防災対策	○		○	18
(3) インフラの整備(道路・港湾・空港・鉄道・電力など)	○	○	○	19
(4) 雇用・人材育成	○	○	○	21
(5) 交流人口の増加と観光振興		○	○	22
4 参考資料				23
5 部会別索引				27
6 SDGs別索引				31

要望件数

重点要望事項 5 件	新規要望事項 11 件	継続要望事項 56 件	合計 72 件
------------	-------------	-------------	---------

回答基準

実現性		実行速度	
A	実現可能、又は実行中	A	本年度中、又は来年度 2年以内
B	実現に向けて検討中	B	3ヵ年計画、又は3年以内に実行
C	検討する	C	長期計画、又は計画中
D	見通し不明、又は不可能	D	実行なし

1-1 「苫小牧都市再生コンセプトプラン」に基づいた駅周辺再整備の推進

●要望事項

- 1 旧サンプラザビルに関する権利集約の早期実現
- 2 旧サンプラザビル・駐車場施設の公費投入も考慮した早期解体
- 3 スマートシティへの拡張性を考慮した駅周辺再整備の推進
- 4 「苫小牧都市再生コンセプトプラン」に基づいたにぎわい創出事業の推進

●目的と効果

- 目的**
- ・平成26年の旧サンプラザビル閉鎖から8年ほどが経過しました。その間、苫小牧市は再整備に向け、様々な可能性を探り行動されておりますが、時間の経過とともに市民や経済界においても、閉塞感が広がりつつありました。
 - ・旧サンプラザビルにおいては、地代請求訴訟の和解が不成立となるなど不透明感が増していますが、訴訟結果によらず、一刻も早い権利集約が待たれます。
 - ・2021年3月に「苫小牧都市再生コンセプトプラン」が公表され、市民からは歓迎の声が寄せられております。このプランに基づいた駅周辺再整備構想の策定が推進されることで、市民の駅前問題への関心はさらに喚起され、「誇りと愛着が持てるまち」への前進が加速します。
- 効果**
- ・駅周辺以外の施設計画と連携した再整備構想が策定されることで、相互に人の流れが生まれるなど、相乗効果が見込まれ、拠点としてのまちなか形成が推進されます。

●SDGs (Sustainable Development Goals:持続可能な開発目標)



閉鎖から8年余りが経過した旧サンプラザビル



老朽化のため閉鎖された駅前バスターミナル



No.20001 担当部会：商業部会、食品飲食業部会、建設業部会、地域振興委員会

1-(2) コロナ禍での事業継続に向けた支援

●要望事項

- 1 事業継続を図る中小・小規模事業者に対する事業継続や経営力強化に対する支援
- 2 コロナ禍に立ち向かい、成長を目指して挑戦する中小・小規模事業者への支援
- 3 ウィズコロナを前提とした社会経済活動への移行推進

●目的と効果

目的 ・長期化する新型コロナウイルス感染症流行により、経済活動の停滞が生じ、業種規模を問わずあらゆる事業者において、需要の減少、業績や資金繰りの急速な悪化など極めて厳しい状況が続いています。特に地域経済や雇用を支える中小・小規模事業者においては、事態の収束が見えない中で将来の展望を抱けず、廃業を検討している事業者も数多くおります。

・コロナ禍で苦しむ中小企業の事業継続にくわえ、本質的な経営課題解決と抜本的な経営改善が早期に必要であり、具体的には、事業継続・経営力強化に対する支援や、コロナ禍に立ち向かい、成長を目指して挑戦する中小・小規模事業者の後押し、さらには安全・安心を確保した経済活動の再開支援が切望されます。

・新型コロナウイルスの収束が見通せない中、従来型の経済活動の自粛と補償といった対策と支援では、財政的への悪影響など限界が見えつつあります。ウィズコロナを前提とした社会体制、経済体制へ移行するため、過去の検証や規制の緩和など、新しい視点にたった総合的な検討が求められています。

効果 ・支援策を迅速かつ継続的に行うことにより、企業が外部環境の変化に円滑に対応することができ、事業の継続、雇用の維持が図られます。

・ウィズコロナを前提とした経済活動により自律的な地域経済の活性化、回復が可能となります。

●SDGs (Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標)



1-(3) 利便性向上に向けた道路整備等の推進

●要望事項

- 1 緑跨線橋と苫小牧中央インターチェンジの間に位置する高丘地区への4車線拡幅整備の推進（出口付近の4車線化早期整備）（P23 参考資料①）
- 2 道道苫小牧環状線（札幌方面）から国道276号線に左折する車線レーンの混雑緩和対策（市立病院前交差点）（P23 参考資料②）
- 3 災害対応道路として、国道36号線と臨海北通の接続道路新設の検討（P23 参考資料③）
- 4 通行車両の安全確保のための鹿対策の実施

●目的と効果

- 目的 1・2021年に開通した中央インターチェンジは、コロナ禍においてもその高い利便性から交通量が増加しつつあります。また付近の沿道では土地利用規制が見直されるなど、今後更に交通量増加が予想されることから、緑跨線橋と苫小牧中央インターチェンジの間の高丘地区への4車線拡幅整備により、安全で円滑な交通が確保されます。
- 2・道道苫小牧環状線から国道276号線の緑跨線橋側への左折レーンは1車線しかなく、交差点付近は車線変更を行う車が混雑しています。歩車分離式信号の導入や、市立病院駐車場側への直進車線を左折も可能に変更するなどの対策を行うことで、混雑が解消・緩和され、自動車事故の減少や歩行者の安全が確保されます。
 - 3・本市は、東西にかけて鉄路が走り、中野跨線橋から港跨線橋間の約4.2kmには鉄路をまたぐ方法がなく、いずれかの跨線橋に迂回して移動する必要があります。現在、海側には多くの製造業や物流関連企業が進出し、多数の従業員を抱え、さらに、臨海北通は交通量も多いことから、災害時における人と車両の鉄北方向への避難路を確保することにより地域の安全性が向上します。
 - 4・近年、鹿の生息数の増加により鹿と車両の接触による交通事故が多発しております。特に勇払橋付近の市道での出没が多く、また、街路灯の設置が少ないため、回避行動が遅れるといった意見を聞いております。鹿の捕獲活動や鹿対策の実施により、事故を未然に防ぎ安全の確保が期待されます。

効果 ・円滑な交通、利便性向上及び災害時における安心安全の確保が期待できます。

●SDGs（Sustainable Development Goals:持続可能な開発目標）



1-(4) 物流効率化に向けた港湾機能の強化・整備

●要望事項

- 1 東港区機能伸展のためのインフラ整備として
 - ・上下水道設備の充実及び強化 (P24 参考資料④)
- 2 周文ふ頭岸壁の早期整備 (P24 参考資料⑤)
- 3 西港区中央北1号岸壁のエプロン・荷捌き地の整備 (P24 参考資料⑥)

●目的と効果

- 目的**
- 1・東港区を含む安平川から東側のエリアは苫小牧市の給水区域に入っておらず、胆振東部地震の際には、断水復旧までに約1ヶ月の期間を要するなど、復旧を市が主導できない状況となりました。
 - ・東港区のインフラ整備を行うことで、災害時の対応能力強化と物流機能維持が図られます。
 - ・また2020年6月から大型冷蔵冷凍倉庫が稼働し、同倉庫と連携した食関連事業の集積が期待されるなか、企業の進出を後押しし、付加価値の高い物流拠点形成の促進が期待されます。
 - 2、3・公共埠頭では混雑が恒常化し、船舶の滞船や不必要な横持ち※が生じるなど、非効率な荷役を強いられており、北海道胆振東部地震においても、災害支援船が利用岸壁の変更・移動を余儀なくされるなど、岸壁の不足が深刻な状況となっております。
 - ・大規模自然災害等に備えた耐震・防災機能強化と荷役作業の効率化により、船舶の混雑・停船の緩和が図られ、物流コストの削減や港湾労働者の労働生産性向上、地域産業の競争力強化に繋がります。

効果 ・物流の効率化と苫小牧港区の更なる発展が期待できます。

●SDGs (Sustainable Development Goals:持続可能な開発目標)



※横持ちとは

- ・特定の場所に置かれた貨物を別の場所などに移動すること。
- ・混雑により、荷役事業者が希望するふ頭を利用できないケースが発生しており、離れたふ頭を利用しなければならず、目的地まで陸路での輸送を余儀なくされている。

1-(5) 北海道のエネルギー拠点としての次世代エネルギー発電施設等の関連事業の誘致による整備促進

●要望事項

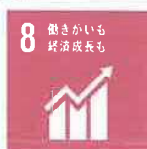
苫小牧の地域特性を生かした発電・蓄電・供給施設の設置促進、並びにエネルギーの地産地消によるエネルギーコストの低減を目指した取組の検討

●目的と効果

- 目的**
- ・苫東厚真発電所は、北海道全体の発電量の50%超を石炭火力によって担っていましたが、経済産業省が二酸化炭素（CO₂）を多く排出する旧式の石炭火力の発電量を2030年までに大幅に削減する方針を打ち出し、世界的にも石炭火力発電に対する逆風が吹く中、発電施設の老朽化も進行しております。
 - ・一方で、石炭火力を主力とする発電による電力価格の上昇は、道内企業の生産コストの上昇と競争力の低下を招き、企業の利益を確実に圧迫しており、低廉で安定的な電力（緊急時の電力供給を含む）の供給によって、生産活動の維持向上が図られることで、企業の業績改善及び市の税収アップが期待されます。
 - ・また、脱炭素社会の実現に向け、各企業には非常に高いSDGs（CO₂削減）目標が課せられています。目標達成のためにグリーン電力の活用は必須であり、次世代エネルギー発電施設等の整備促進が強く求められています。

- 効果**
- ・次世代エネルギーの集積基地としての市の魅力、認知度向上します。
 - ・道内外の企業誘致活動におけるPRポイントとしての活用ができます。
 - ・再生可能エネルギーの活用によるSDGs目標の達成できます。
 - ・企業誘致による施設設置時の地場産業参入機会の創出に繋がります。
 - ・自然災害等の非常事態に非常用電源として稼働でき、非常時に強いまちとしての魅力向上します。
 - ・LNG、バイオマス、水素、アンモニア、太陽光、風力など多様で先進的な電源の開発促進に寄与します。

●SDGs（Sustainable Development Goals:持続可能な開発目標）



2-1(1) 「苫小牧都市再生コンセプトプラン」に基づいた駅周辺再整備の推進

●要望事項

- 1 苫小牧駅周辺への学生が交流できる商業集積のまちづくり計画の策定
- 2 苫小牧駅周辺への保育施設の充実

●目的と効果

- 目的**
- 1・苫小牧駅周辺には若い世代、特に学生が利用できる交流の場が少ないのが現状です。町の活性化には若者世代の活気が必要であると考えており、駅周辺に娯楽を楽しめる商業施設や、学生や社会人が勉強・交流する場を設け、まちなかへの導線を作ることが交流人口の増加や活気あるまちづくりが可能と考えております。
 - 2・市内中心エリアには保育園や認定こども園など、子どもを預ける場所が少ない状況です。子供を預け入れる場所がなければ、企業が働きやすい環境づくりを行ったとしても仕事と子育ての両立は難しいため、駅周辺に保育施設の拡充を行うことが子育て世代の環境整備に繋がるものと考えております。

- 効果**
- 1・中心地に交流拠点を設けることで、若者世代も含めた中心市街地での交流人口の増加に繋がります。
 - ・交流人口の増加により、娯楽・飲食含む商業施設が充実します。
 - 2・市内中心エリアに保育施設が拡充されることで、入所を希望する子育て世代のニーズに応えることができ、仕事と子育ての両立が可能となります。

●SDGs (Sustainable Development Goals:持続可能な開発目標)



2-(2) 苫小牧を支える企業への支援策

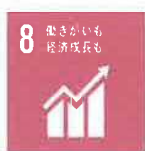
●要望事項

- 1 地産地消に取り組む事業者への支援
- 2 地元企業への投資等促進に寄与する補助や減税

●目的と効果

- 目的**
- 1・地産地消に対する支援としては、東胆振地産地食フェア・イン・とまこまいに対して毎年助成を頂いており、地産地消の取組に対し大きく寄与しているものと考えております。
一方で、地産地消を推進する取組としては地域の飲食店等による継続的な取組が不可欠です。地域振興のために地産地消を進める事業者に対する減税や助成など支援をいただくことで、より広く地産地消の取組が促進されるものと考えます。
 - 2・立地企業に対する市独自の支援メニューとして、苫小牧市企業立地振興条例に基づく各種助成金、創業サポート事業補助金、イノベーション活性化事業などが行われておりますが、新型コロナウイルス感染症長期化の影響を多くの事業所が受けており、また、今後のポストコロナ・ウィズコロナ時代の経済社会の変化に対応するため、地元企業の挑戦を支援するための補助や減税の拡充を要望します。
- 効果**
- 1・地産地消の取組を進める事で、消費行動の域内循環が活性化します。
・地産地消に取り組む事業者を支援することで、より広く、日常的な独自の食文化の醸成に繋がります。
 - 2・地元の中小企業の振興並びに事業再構築を支援することができ、地域経済の活性化や雇用機会の拡大に繋がります。

●SDGs (Sustainable Development Goals:持続可能な開発目標)



2-(3) まちづくり・防災対策

●要望事項

- 1 バス停留所の環境改善
- 2 急傾斜地の崩壊や地すべり等に関する土砂災害対策の早期構築
・苫小牧川流域、有珠川流域の土石流危険個所の土砂災害対策
- 3 防潮堤建設の検討

●目的と効果

目的 1・市内中心部には屋根及び壁付のバス停留所が整備されつつありますが、全域には普及しておらず、整備されることで利用者の利便性と利用率の向上に繋がるものと考えております。

2・北海道室蘭建設管理部が作成した土砂災害危険箇所図において苫小牧川流域と有珠川流域は土石流危険渓流に設定されています。土砂災害による苫小牧川、有珠川の氾濫等の災害時には、両流域地域は市内他地区よりも住宅地への被害が想定され、土砂災害対策の早期構築が必要となります。

3・2021年7月に道が公表した千島海溝・日本海溝沿いの巨大地震に伴う津波による浸水想定では、苫小牧は道内で最も広い浸水面積想定となっており、避難対策並びに浸水防止対策が急務であります。市内は東西に長く、山側への避難経路が限定されているため、浸水防止対策として防潮堤建設の検討を要望します。

効果 1・バス利用者の環境が改善され、利便性及び利用率が向上し、公共交通による移動が促進されます。

2・土砂流危険個所の早期整備により、自然災害における不安軽減が図られます。

3・防潮堤の建設を含めた幅広い防災対策を検討することで、近年の突発的な災害にも対応することができ、事業活動、市民生活の不安軽減が図られます。

●SDGs (Sustainable Development Goals:持続可能な開発目標)



2-(4) 利便性向上に向けた道路整備等の推進

●要望事項

物流車両の安全確保のための整備

- 1 市道の管理強化（草木の定期的伐採）（元中野町、東港海岸通り、晴海共同詰所前）及び道路標識の整備、新規設置（苫小牧バイオマス発電所周辺）
- 2 交通渋滞緩和のための信号機管制や右折矢印の増設（ナラサキスタックス㈱沼ノ端物流センター前、道道259号線陸橋を降りたローソン前）（P25 参考資料⑦）
- 3 工業団地内の市道のメンテナンス強化（苫東地区内等）
- 4 市道沼ノ端勇払線の安全対策の実施（1）拡幅整備、（2）白線・黄色線の表示
（P25 参考資料⑧）

●目的と効果

- 目的**
- 1・要望項目であげた道路につきましては、夏場に草木が生い茂り、大型車両にとっては見通しが悪いだけでなく、はみ出した草木との接触及び回避行動により他の車両と接触する可能性があるとの意見を多く聞いております。
 - ・苫小牧バイオマス発電所周辺の港湾道路において、車幅が狭いにも関わらず駐停車する大型車両があり、通行に支障が出ているとの意見を聞いておりますので、駐停車禁止の看板設置や標識の改善を要望します。
 - 2・道道259号線、道道上厚真苫小牧線と苫小牧西港方面に伸びる道路の交差点（ナラサキスタックス㈱沼ノ端物流センター前）は、交通量が多いため右折矢印の信号機が設置されていますが、右折矢印の表示時間が短い（約5秒程度）ため、混雑が発生しており、表示時間の延長を要望します。
 - ・道道259号線のJR日高本線を跨ぐ陸橋を苫小牧側に降りてすぐの交差点（ローソン苫小牧勇払店前）は右折矢印が設置されておらず、渋滞が発生しています。混雑を緩和するために右折矢印の増設を要望します。
 - 3・工業団地内は物流や工事関係車両など大型車両の走行が多く、路面にできた凹凸により走行に支障をきたしており、製品の荷痛みなどが発生する可能性があるため、定期的なメンテナンスの実施を要望します。
 - 4・市道沼ノ端勇払線は、市中心部と勇払方面を結ぶ生活道として利用されているほか、臨海企業の輸送道路としても使用されており、大型車両も多く通行しております。路幅が狭く、路面に穴が開くなど痛んでいる箇所が目立つため、事故を未然に防ぐための整備を要望します。

効果 ・円滑な交通、利便性向上に繋がります。

●SDGs（Sustainable Development Goals:持続可能な開発目標）



No.23010、23013 担当部会：運輸交通部会、地域振興委員会

2-(5) 雇用・人材育成

●要望事項

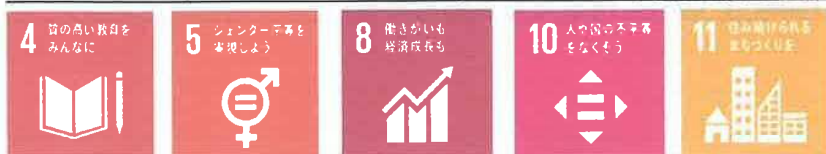
- 1 介護・保育をはじめとするサービス業並びに飲食業に係る人材教育の充実
 - ・飲食業や一次産業従事者に対する人材教育の充実
- 2 市内中心部への国立大学工学部の誘致
- 3 保育・介護環境整備による女性の社会進出推進
 - ・介護・保育に関する支援制度の充実

●目的と効果

- 目的**
- 1 市内には調理師学校や農業・漁業・酪農等の専門技術を学ぶ環境がなく、調理師を目指す人材や一次産業に係る人材の市外流出が、市内の飲食業界の成長を滞らせている一因となっているものと考えております。
そこで、調理師学校などの専門教育機関の誘致や、市外の専門教育機関で技術を学び、いずれ市内での就労を希望する人材への就学支援等、食品・飲食業に関する人材教育を充実させる施策の策定を要望します。
 - 2 高等教育機関である工業高等専門学校があるものの、工業系の大学や学部がなく、学生は道外大学への進学や就職を行うなど、市外に転出する割合が非常に高い状況です。当市がよりものづくりの拠点として発展するためには、工業系の学部の誘致が必要であり、特に国立大学の工学部の誘致を要望いたします。
 - 3 市内には保育・介護分野の養成学部・学科はなく、市外養成施設に通学する学生が多い状況になっております。結果的に通学先で就職するなど若者の市外流出が進み、人材の確保が困難となっています。若者の市外流出を防ぎ、且つ人材不足を解消する制度の整備を要望します。

- 効果**
- 1 苫小牧市の食品・飲食業を支える人材を育て、将来の観光業を含む産業発展に繋がり、交流人口の増加が期待できます。
・苫小牧市内での就労を目的とする人材の増加により、定住者の増加が期待できます。
 - 2 地元への進学の実績が増えるほか、企業の優秀な人材確保に繋がり、ものづくりの拠点化が進みます。
 - 3 札幌市では養成施設へ入学する学生に対し貸付を行っており、市内で就職すると返金不要となる制度があります。苫小牧市でも同制度を整備し、地元就職を推進することにより、若者の人口流出・人手不足解消が期待され、女性の社会進出を目指します。

●SDGs (Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標)



2-⑥ 脱炭素社会に向けた立地企業による新たな取組に対する支援並びに新産業の創出支援

●要望事項

- 1 補助制度創設
 - ①脱炭素化を目指す企業とのオフィシャルパートナー制度の創設
 - ②グリーンイノベーションに対する支援
 - ③グリーン雇用の創出支援
 - ④カーボンリサイクル関連事業に対する支援
- 2 脱炭素よろず支援拠点の設置
 - ①脱炭素化を図る企業向けの相談窓口設置
 - ②コワーキングスペース、シェアオフィスの設置
 - ③カーボンリサイクル導入を促進するための情報提供システムの整備
- 3 脱炭素社会実現に向けたロードマップの策定

●目的と効果

- 目的**
- 1・苫小牧に係る企業並びに苫小牧に立地を検討している企業が、新規関連事業に取組やすい環境を整えることによる、脱炭素社会実現・市内産業の活性化を図ります。
 - 2・市内外・道外企業との情報交換の円滑化やカーボンリサイクル導入促進及び相談窓口設置による新事業・新産業創出を後押しします。
 - 3・ロードマップ策定による、課題の全体像の把握、並びに市・企業間での脱炭素に対する認識のズレを無くすことによる脱炭素社会実現を後押しします。

- 効果**
- 1・補助制度創設により企業が脱炭素事業に取組易くなり、脱炭素社会の実現に寄与します。脱炭素化への取組に対する手厚い支援は苫小牧市の新たな魅力となり、市外・道外企業へのPR・研究施設及び企業誘致に寄与します。
 - ・グリーン雇用の創出により、優秀な人材の確保及び市外流出防止・人口増加に寄与します。
 - ・カーボンリサイクル関連事業に対する支援により、カーボンリサイクルが苫小牧市特有の産業として根付きます。
 - 2・脱炭素よろず支援拠点を設置することで、脱炭素及びカーボンリサイクルに対する関心が高まり、関連事業参入検討に繋がります。
 - 3・ロードマップ策定により、苫小牧市・立地企業一丸となった脱炭素社会に向けた取組促進を可能にします。

●SDGs (Sustainable Development Goals:持続可能な開発目標)



2-(7) 北海道の電力供給が安定化するまで当面の原子力発電所活用

●要望事項

北海道の電力供給が安定化するまで当面の原子力発電所活用

●目的と効果

目的 ・2018年の東胆振大震災の際、苫東厚真火力発電所の停止により、北海道のほぼ全域が停電し、市内企業・市民に大きな影響を与えました。苫東厚真火力発電所は北海道電力最大の火力発電所であり、停止により供給力の半分以上を一気に失う事態に陥りました。今後、地震などの大災害によるブラックアウトを防ぐには、苫東厚真火力発電所に匹敵するベースロード電源の新設による安定した電力の供給が必須となりますが、脱炭素化社会に合った石炭火力の代替となる大型発電所新設が実現する見通しはまだ立っていないのが現状です。原子力発電所を活用することで、環境的・安定的に供給し、大型災害によるブラックアウトを防ぐことを目指し、標記事項を要望します。

効果 ・泊発電所を再稼働させることで、苫東厚真火力発電所が何らかの理由で停止した場合にもブラックアウトを防ぐことが可能となります。

・原子力発電再稼働は、安全性に議論が喚起されているものの、電力の安定供給・CO₂排出抑制が可能です。燃料となるウランは、石油に比べて政情の安定した国々に埋蔵されていることから、資源の安定確保が可能です。加えて、発電時にCO₂を排出しないことから、脱炭素社会の実現に貢献します。また、発電コストに占める燃料費の割合が、火力発電などほかの発電方法に比べて低く、燃料費の高騰による発電コストの上昇を避けることができるため、電気料金安定化に寄与します。

●SDGs (Sustainable Development Goals:持続可能な開発目標)



2-(8) 賑わい創出に係る行政手続きのワンストップ化

●要望事項

賑わい創出に係る行政手続きのワンストップ化

●目的と効果

目的 ・コロナ禍の長期化に伴い、市内の消費は冷え込んでおりましたが、2021年9月末をもって緊急事態が解除され、これから徐々に賑わい創出の取組が増加していくことが予想されます。その際に、イベントの趣旨・内容によっては行政等への許可申請事務が複数の窓口分散され、非常に煩雑となることが多いと聞いております。そこで、まちを元気づけるための各種イベント開催に係る行政手続きの簡素化、またはワンストップの相談窓口の設置などを要望し、賑わい創出に対する民間の取組促進に期待します。

効果 ・イベント開催に係る手続きの簡素化により、賑わい創出への取組が促進され、市内の交流人口増加が期待されます。

●SDGs (Sustainable Development Goals:持続可能な開発目標)



No.23007 担当部会：食品飲食業部会

2-(9) 苫小牧近海における水産物養殖事業の可能性調査・研究

●要望事項

苫小牧近海における水産物養殖事業の可能性調査・研究

●目的と効果

目的 ・北海道東部の太平洋沿岸で発生した赤潮による漁業被害が拡大しており、今後さらに被害が拡大する懸念もあります。また、道外では軽石の漂着による漁業被害が発生するなど、自然環境の変化による被害が多数発生しております。現在苫小牧近海ではこうした被害は見受けられませんが、自然環境の変化による漁業への悪影響はいつ発生するか不透明です。

苫小牧近海は、多種多様な品種の海産物の漁獲があり、幅広い魚種に適した生育環境を有するものと推測できることから、養殖産業においては高い可能性を秘めているものと考えます。苫小牧近海における養殖事業の可能性を調査し、環境に適した魚種やコストなど多角的な検討を重ねることで、苫小牧市の新たな産業の創出に繋がり、市内の飲食業や漁業者の発展を助けるものと考えます。

効果 ・養殖事業の調査・研究を進める事で、独自の産業創出の可能性が広がり、飲食業者・一次産業従事者の産業発展に繋がります。

●SDGs (Sustainable Development Goals:持続可能な開発目標)



No.23009 担当部会：食品飲食業部会

2-(10) 食と観光プロジェクトへの支援、イベントの再活性化

●要望事項

- 1 食と観光プロジェクトへの支援
- 2 市内大規模イベントへの民間活用の推進

●目的と効果

目的 1・新型コロナウイルス感染症の影響が長期化し、食と観光を取り巻く環境は非常に厳しい状況となっております。アフターコロナに向け、今後食と観光により注力していく必要があると考えます。大きな推進力を生み出すためには行政や民間事業者、団体、金融機関、更に学生や多くの市民を巻き込みながら連動・協働できる「オール苫小牧」体制の構築が必要であると思います。

苫小牧商工会議所青年部では、苫小牧でご当地グルメとして、既に認知されているカレーラーメンとホッキカレーのW（ダブル）カレーを核として、新たな地場製品の開発やアニメ等のコンテンツツーリズムとの連携、新たな魅力ある施設（サウナ等）の創出やイベントの開催を通じて、苫小牧の食と観光をPRし、活力ある街を目指すべく、「食と観光プロジェクト」を展開する予定です。

つきましては、苫小牧市としても当プロジェクトに支援を頂き、地域経済活性化へ向け、取り組んでまいりたいと考えております。

- 2・港まつり、スケートまつりなど市内で開催される大規模イベントは、毎年多くの人を楽しませる、苫小牧に欠かせないイベントです。イベントの企画実行にあたり民間を活用することで、コスト削減に繋がるほか、様々なノウハウの活用によりイベントを再活性化することが出来ます。

効果 1・苫小牧の新たな魅力を発信する事で、地域活性化が見込まれます。

・観光振興により交流人口が増加し、地域経済に大きく寄与することが出来ます。

- 2・民間ノウハウの活用により、大規模イベントが市外、道外からの観光客を呼び込む原動力となります。

●SDGs (Sustainable Development Goals:持続可能な開発目標)



2-(11) 持続的な地域価値向上を図るための財源確保

●要望事項

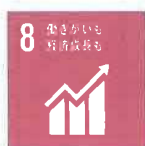
持続的な地域価値向上を図るための財源確保

●目的と効果

- 目的**
- ・まちづくりや子育て支援など、何か新たに事業を行うためには財源が必要となると存じます。苫小牧市においては「ふるさと納税」の寄付件数・金額ともに増加しているものの、更なるPR・内容強化等により財源の確保を推進して頂きたい。
 - ・稼ぐ自治体として、プロジェクトチームや部署を新設し、財源を確保することに特化したセクションがあっても良いと考えております。

- 効果**
- ・財政の基盤が確立されることで他地域より優れた事業展開が可能となります。
 - ・行政サービスが安定し、持続的な地域の価値向上を図る事で住みやすい街となり、将来的な人口増加に期待できます。

●SDGs (Sustainable Development Goals:持続可能な開発目標)



3-(1) 苫小牧を支える企業への支援策

● 要望事項

No.	要望項目	会議所担当部会	回答 実現性	回答 速度
20033	公共事業予算枠確保	建設業部会	A	A
20034	各種公共工事の早期発注並びに施工時期の平準化	建設業部会	A	A
20035	働き方改革や経済状況に対応した公共事業発注の推進と発注金額の適正化	建設業部会	A	A
20036	地元企業への優先発注並びに地元受注率の向上	建設業部会	A	A
20038	指定管理者に対する地場活用の推進	製造業部会	A	A
20043	日本政策金融公庫苫小牧出張所の支店昇格	会議所	B	A
20046	苫小牧市中小企業創業サポート事業補助金の拡充	会議所	A	B
20052	店舗改装費補助金の利用要件の緩和	商業部会	A	A
20084	北海道開発にかかる枠組みの堅持	建設業部会	A	A
21010	市内中小企業の産業振興と新産業創出を後押しする「ビジネスサポートセンター(仮称)」の設置	青年部	B	C
22002	苫小牧市プレミアム付商品券事業の継続的な実施	食品飲食業部会/商業部会	A	A

● 目的と効果

苫小牧地域を支える企業への各種支援策により、持続的に発展できる環境の維持、整備が可能となり、急激な外部環境の変化に対応するための素地が維持されます。

● SDGs (Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標)



3-(2) まちづくり・防災対策

●要望事項

No.	要望項目	会議所担当部会	回答 実現性	回答 速度
20014	公的津波避難施設設置の推進	建設業部会	A	A
20027	多文化共生社会の実現へ向けた施策の推進	食品飲食業部会	A	A
20050	繁華街・地域商業地区の整備促進 ②街路灯LED化の推進	商業部会	A	B
20054	商業利用に対する空家等解体補助金の対象拡大	商業部会	C	C
20055	勇払前浜地区の整備活用	地域振興委員会	B	B
21009	苫小牧市の特性を活かした新たな産業や事業の創出	会議所/製造業部会	B	C
21011	定住者増加のための家族を伴った移住の促進	食品飲食業部会	D	D
21012	定住者増加のための大企業、IT企業などのサテライトオフィス 及び教育機関の誘致と移住の促進	食品飲食業部会	C	C
21013	定住者増加のためのワーケーションを契機とした移住者の獲得	食品飲食業部会	B (政策) C (港湾)	B (政策) C (港湾)
21014	市外企業の市内進出、移転及び支店設立等の検討に係る視 察費用の負担制度創設	サービス業部会	A	A
21016	デジタル技術を活用した行政サービスの積極的な導入 市民のITリテラシー向上による情報格差解消に向けた取り組 み推進	食品飲食業部会	D	D

●目的と効果

生活基盤を支える商店街やコミュニティの維持・存続に関する支援体制の拡充、強化により、持続可能で、災害に強く、東西バランスを考慮したまちづくりの推進が期待できます。

●SDGs (Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標)



※ITリテラシーとは
情報技術を意味する「IT (Information Technology)」と、
情報や技術を収集・活用する力を意味する「Literacy」を
組み合わせた言葉で、通信、ネットワーク、セキュリティ
など、これらのITに関する要素を理解する力、さらに情
報技術を操作して活用する能力を表します。

3-(3) インフラの整備（道路・港湾・空港・鉄道・電力など）

●要望事項

No.	要望項目	会議所 担当部会	回答 実現性	回答 速度
20010	車両通行量が多い跨線橋(緑・中野・港)の冬期間における交通安全対策(ロードヒーティング敷設、すべり止め舗装等)の実施	運輸交通部会	B	C
20011	北海道運輸局室蘭運輸支局の苫小牧への移設	運輸交通部会	B	C
20032	苫小牧市におけるカーボンニュートラル社会の実現に向けた技術の利活用構想の策定	製造業部会	B	B
22004	国道36号線 苫小牧錦岡～白老社台間の中央分離帯設置	運輸交通部会	C	C
22003	苫小牧中央インターチェンジと国道276号線の接続地点への感知式信号機設置	運輸交通部会	C	C
20057	苫小牧停車場若草道線の一方通行の解除に向けた働きかけの推進	運輸交通部会	B	C
20058	苫小牧登別通(仮称)の道道昇格と接続整備	運輸交通部会/建設業部会	B	C
20059	美沢錦岡通の早期整備	建設業部会/運輸交通部会	B	C
20060	臨海東通の早期整備	建設業部会/運輸交通部会	B	C
20062	市道東部1条通の道道上厚真苫小牧線への接続	建設業部会/運輸交通部会	C	C
20065	利便性を高める市内公共交通機関の交通体系の見直し	サービス業部会	A	B
20069	新千歳空港の発着枠拡大に対応した受入体制の強化並びに利便性の向上(2次交通アクセスの充実)	地域振興委員会	B	C
20070	新千歳空港の滑走路延長の早期実現	地域振興委員会	B	C
20075	苫小牧東部地域の特性を活かした「物流・エネルギー・情報」を柱とした多彩な産業・プロジェクト誘致への支援(自動車・食・物流・エネルギー・ロボット開発等関連産業)	地域振興委員会	C	C
20077	苫小牧東部地域における食品流通・加工拠点形成への支援	地域振興委員会	C	C

No.	要望項目	会議所 担当部会	回答 実現性	回答 速度
20088	函館税関コンテナ検査施設(X線検査場)の東港区での早期設置	運輸交通部会	C	C
20091	東港区・西港区のうねり対策に関する関係機関への要請の強化	運輸交通部会	C	C
20093	苫小牧港の地理的優位性を生かした北極海航路の誘致	運輸交通部会	C	C
20094	市道東部南通線の路肩を含めた道路整備(高潮による通行止めの際の整備)	建設業部会/運輸交通部会	B	C
20095	勇払橋の重量規制緩和に向けた安平川改修計画の早期策定(河口部)	建設業部会/運輸交通部会	B	C
20113	札幌冬季オリンピック・パラリンピックのサテライト開催を視野に入れた白鳥王子アイスアリーナの改修	建設業部会	B	C
20117	南北交通アクセス向上のためのJR線の市街高架化	地域振興委員会	D	C
20118	新千歳空港駅から苫小牧方面へのアクセス向上	地域振興委員会/建設業部会	B	C
20121	国道36号線の中野跨線橋及び明野南通の6車線化	運輸交通部会	C	C

●目的と効果

市や関係機関への働きかけを強化することにより、インフラ整備が促進されます。

●SDGs (Sustainable Development Goals:持続可能な開発目標)



3-(4) 雇用・人材育成

●要望事項

No.	要望項目	会議所 担当部会	回答 実現性	回答 速度
20024	とまジョブ登録企業向けの合同企業説明会の開催等とまジョブの有効活用及び周知推進	建設業部会	A	A
20026	介護・社会福祉法人への就職促進及び施設利用者の就業支援	サービス業部会	B	B
20004	職業訓練法人苫小牧地方職業能力開発協会への協力支援	運輸交通部会	B	B
22006	保育園・幼稚園の地域ニーズに対応した整備	食品飲食業部会	C	C
22007	児童発達支援事業の拡充	青年部	C	C

●目的と効果

生産人口の減少により、深刻な人材不足が喫緊の課題であり、雇用の安定・拡大、地元人材の育成・確保、地元人材育成に必要な施設の維持などが強く求められることから、各種施策の推進により、多様な人材確保と育成ができる環境整備が可能となります。

●SDGs (Sustainable Development Goals:持続可能な開発目標)



3-(5) 交流人口の増加と観光振興

●要望事項

No.	要望項目	会議所 担当部会	回答 実現性	回答 速度
20105	地産地消の推進にかかる事業への支援	食品飲食業部会	A	A
20099	キラキラ公園の憩いの場としての更なる日常利用促進及びイベント開催の促進	サービス業部会	C	C
20103	苫小牧市西側の観光資源(樽前山・アルデン)と民族共生象徴空間「ウポポイ」を連携した広域観光ルートの整備促進	サービス業部会	B	B
20009	苫小牧都市再生コンセプトプランにおけるプロジェクトの推進	会議所	D	C
20007	統合型リゾート誘致活動の継続 北海道と連携したIRコンセプトの策定	会議所	D	C

●目的と効果

自然・食・文化・産業などの地域資源を活かし、各種施設の有効活用、新たな観光ルートの発掘と発信、統合型リゾート誘致などの取組により、誘客促進と交流人口増加が期待できます。

●SDGs (Sustainable Development Goals:持続可能な開発目標)



4 参考資料

P3 参考資料① 参考資料②

1 重点要望事項(3) 利便性向上に向けた道路整備等の推進

1 高丘地区への4車線拡幅整備



2 道道苦小牧環状線左折レーン増設



P3 参考資料③

1 重点要望事項(3) 利便性向上に向けた道路整備等の推進

3 臨海北通接続道路新設



P4 参考資料④ 1 重点要望事項(4) 物流効率化に向けた港湾機能の強化・整備

1 上下水道設備の充実及び強化 (苫小牧市新水道ビジョン：給水地図)



P4 参考資料⑤ 1 重点要望事項(4) 物流効率化に向けた港湾機能の強化・整備

2 周文ふ頭岸壁の早期整備



P4 参考資料⑥ 1 重点要望事項(4) 物流効率化に向けた港湾機能の強化・整備

3 西港区中央北1号岸壁のエプロン・荷捌き地の整備



P9 参考資料⑦ **2 新規要望事項(4) 利便性向上に向けた道路整備等の推進**

物流車両の安全確保のための整備

- 2 交通渋滞緩和のための信号機管制や右折矢印の増設（ナラサキスタックス㈱沼ノ端物流センター前、道道259号線陸橋を降りたローソン前）



P9 参考資料⑧ **2 新規要望事項(4) 利便性向上に向けた道路整備等の推進**

物流車両の安全確保のための整備

- 4 市道沼ノ端勇払線の安全対策の実施 (1) 拡幅整備、(2)白線・黄色線の表示



P19 参考資料⑨ **3 継続要望事項(3) インフラ整備（道路・港湾・空港・鉄道・電力など）**

20059 美沢錦岡通の早期整備

20060 臨海東通の早期整備



P19 参考資料⑩ 3 継続要望事項(3) インフラ整備（道路・港湾・空港・鉄道・電力など）

20094 市道東部南通線の路肩を含めた道路整備（高潮による通行止めの際の整備）

P20 参考資料⑪ 3 継続要望事項(3) インフラ整備（道路・港湾・空港・鉄道・電力など）

20095 勇払橋の重量規制緩和に向けた安平川改修計画の早期策定（河口部）



P19 参考資料⑫ 3 継続要望事項(3) インフラ整備（道路・港湾・空港・鉄道・電力など）

22004 国道 36 号線 苫小牧錦岡～白老社台間の中央分離帯設置



5 部会別索引

担当部会	No	分類	2023年度 要望事項	回答 実現性	回答 速度	ページ
商業部会	20001	重点	「苫小牧都市再生コンセプトプラン」に基づいた賑わい創出事業の推進			1
	23001	新規	苫小牧駅周辺への学生が交流できる商業集積のまちづくり計画の策定			6
	23002	新規	苫小牧駅周辺への保育施設の拡充			6
	23003	新規	バス停留所の環境改善			8
	20050	継続	繁華街・地域商業地区の整備促進 街路灯LED化の推進	A	B	18
	20052	継続	店舗改装費補助金の利用要件の緩和	A	A	17
	20054	継続	商業利用に対する空家等解体補助金の対象拡大	C	C	18
	22002	継続	苫小牧市プレミアム付商品券事業の継続的な実施	A	A	17
食品飲食 業部会	20001	重点	「苫小牧都市再生コンセプトプラン」に基づいた賑わい創出事業の推進			1
	20012	新規	介護・保育をはじめとするサービス業並びに飲食業に係る人材教育の充実 飲食業や一次産業従事者に対する人材教育の充実			10
	20027	継続	多文化共生社会の実現に向けた施策の推進	A	A	18
	20105	継続	地産地消の推進にかかる事業への支援	A	A	22
	21011	継続	定住者増加のための家族を伴った移住の促進	D	D	18
	21012	継続	定住者増加のための大企業、IT企業などのサテライトオフィス及び教育機関の誘致 と移住の促進	C	C	18
	21013	継続	定住者増加のためのワーケーションを契機とした移住者の獲得	B (政策) C (港湾)	B (政策) C (港湾)	18
	21016	継続	デジタル技術を活用した行政サービスの積極的な導入 市民のITリテラシー向上による情報格差解消に向けた取り組み推進	D	D	18
	22002	継続	苫小牧市プレミアム付商品券事業の継続的な実施	A	A	17
製造業 部会	23004	新規	脱炭素社会に向けた立地企業による新たな取組に対する支援並びに新産業の創 出支援 1. 補助制度創設 ①脱炭素化を目指す企業とのオフィシャルパートナー制度※1の創設 ②グリーンイノベーション※2に対する支援 ③グリーン雇用※3の創出支援 ④カーボンリサイクル関連事業に対する支援 2. 脱炭素よろず支援拠点の設置 ①脱炭素化を図る企業向けの相談窓口設置 ②コワーキングスペース、シェアオフィスの設置 ③カーボンリサイクル導入を促進するための情報提供システムの整備 3. 脱炭素社会実現に向けたロードマップの策定			11
	23005	新規	北海道の電力供給が安定化するまで当面の原子力発電所活用			12
	21017	重点	苫小牧の地域特性を生かした発電・蓄電・供給施設の設置促進、並びにエネル ギーの地産地消によるエネルギーコストの低減を目指した取り組みの検討	C	C	5
	20032	継続	苫小牧市におけるカーボンニュートラル社会の実現に向けた技術の利活用構想の 策定	B	B	19
	20038	継続	指定管理者に対する地場活用の推進	A	A	17
	21009	継続	苫小牧市の特性を活かした新たな産業や事業の創出	B	C	18

担当部会	No	分類	2023年度 要望事項	回答 実現性	回答 速度	ページ
建設業 部会	21008	重点	周文ふ頭新規岸壁の整備(新規着工)	C	C	4
	23018	重点	スマートシティへの拡張性を考慮した駅周辺再整備の推進			2
	23006	新規	急傾斜地の崩壊や地すべり等に関する土砂災害対策の早期構築 苫小牧川流域、有珠川流域の土石流危険個所の土砂災害対策			8
	20014	継続	公的津波避難施設設置の推進	A	A	18
	20024	継続	とまジョブ登録企業向けの合同企業説明会の開催等とまジョブの有効活用及び周知推進	A	A	21
	20033	継続	公共事業予算枠確保	A	A	17
	20034	継続	各種公共工事の早期発注並びに施工時期の平準化	A	A	17
	20035	継続	働き方改革や経済状況に対応した公共事業発注の推進と発注金額の適正化	A	A	17
	20036	継続	地元企業への優先発注並びに地元受注率の向上	A	A	17
	20058	継続	苫小牧登別通(仮称)の道道昇格と接続整備	B	C	19
	20059	継続	美沢錦岡通の早期整備	B	C	19
	20060	継続	臨海東通の早期整備	B	C	19
	20062	継続	市道東部1条通の道道上厚真苫小牧線への接続	C	C	19
	20064	継続	北海道開発にかかる枠組みの堅持	A	A	17
	20094	継続	市道東部南通線の路肩を含めた道路整備(高潮による通行止めの際の整備)	B	C	20
	20095	継続	勇払橋の重量規制緩和に向けた安平川改修計画の早期策定(河口部)	B	C	20
	20113	継続	札幌冬季オリンピック・パラリンピックのサテライト開催を視野に入れた白鳥王子アイスアリーナの改修	B	C	20
	20118	継続	新千歳空港駅から苫小牧方面へのアクセス向上	B	C	20
サービス 業部会	23007	新規	賑わい創出に係る行政手続きのワンストップ化			13
	23008	新規	地産地消に取り組む事業者への支援			7
	23009	新規	苫小牧近海における水産物養殖事業の可能性調査・研究			14
	20026	継続	介護・社会福祉法人への就職促進及び施設利用者の就業支援	B	B	21
	20065	継続	利便性を高める市内公共交通機関の交通体系の見直し	A	B	19
	20099	継続	キラキラ公園の憩いの場としての更なる日常利用促進及びイベント開催の促進	C	C	22
	20103	継続	苫小牧市西側の観光資源(樽前山・アルテン)と民族共生象徴空間「ウポポイ」を連携した広域観光ルートの整備促進	B	B	22
	21014	継続	市外企業の市内進出、移転及び支店設立等の検討に係る視察費用の負担制度創設	A	A	18

担当部会	No	分類	2023年度 要望事項	回答 実現性	回答 速度	ページ
運輸交通 部会	20064	重点	緑跨線橋と苫小牧中央インターチェンジの間に位置する高丘地区への4車線拡幅整備の推進(出口付近の4車線化早期整備)	B	C	3
	20064	重点	道道苫小牧環状線(札幌方面)から国道276号線に左折する車線レーンの混雑緩和対策(市立病院前交差点)	B	B	3
	20086	重点	東港区機能進展のためのインフラ整備 ・上下水道設備の充実及び強化	D	D	4
	20087	重点	通行車両の安全確保のための鹿対策の実施	B	C	3
	20092	重点	西港区中央北1号岸壁のエプロン・荷捌き地の整備	C	C	4
	20115	重点	災害対応道路として、国道36号線と臨海北通の接続道路新設の検討	D	C	3
	21008	重点	周文ふ頭岸壁の早期整備	C	C	4
	23010	新規	物流車両の安全確保のための整備 ・市道の管理強化(草木の定期的伐採)(元中野町、東 港海岸通り、晴海共同詰所前)及び道路標識の整備、新規設置(苫小牧バイオマス発電所周辺) ・交通渋滞緩和のための信号機管制や左折矢印の増設(ナラサキスタックス(株)沼ノ端物流センター前、道道259号線陸橋を降りたローソン前) ・工業団地内の市道のメンテナンス強化(苫東地区内等)			9
	20004	継続	職業訓練法人苫小牧地方職業能力開発協会への協力支援	B	B	21
	20010	継続	車両通行量が多い跨線橋(緑・中野・港)の冬期間における交通安全対策(ロードヒーティング敷設、すべり止め舗装等)の実施	B	C	19
	20011	継続	北海道運輸局室蘭運輸支局の苫小牧への移設	B	C	19
	20057	継続	苫小牧停車場若草道線の一方通行の解除に向けた働きかけの推進	B	C	19
	20058	継続	苫小牧登別通(仮称)の道道界格と接続整備	B	C	19
	20059	継続	美沢錦岡通の早期整備	B	C	19
	20060	継続	臨海東通の早期整備	B	C	19
	20062	継続	市道東部1条通の道道上厚真苫小牧線への接続	C	C	19
	20088	継続	函館税関コンテナ検査施設(X線検査場)の東港区での早期設置	C	C	20
	20091	継続	東港区・西港区のうねり対策に関する関係機関への要請の強化	C	C	20
	20093	継続	苫小牧港の地理的優位性を生かした北極海航路の誘致	C	C	20
	20094	継続	市道東部南通線の路肩を含めた道路整備(高潮による通行止めの際の整備)	B	C	20
	20095	継続	勇払橋の重量規制緩和に向けた安平川改修計画の早期策定(河口部)	B	C	20
	20121	継続	国道36号線の中野跨線橋及び明野南通の6車線化	C	C	20
	22003	継続	苫小牧中央インターチェンジと国道276号線の接続地点への感知式信号機設置	C	C	19
	22004	継続	国道36号線 苫小牧錦岡～白老社台間の中央分離帯設置	C	C	19

担当部会	No	分類	2023年度 要望事項	回答 実現性	回答 速度	ページ
地域 振興 委員会	20001	重点	「苫小牧都市再生コンセプトプラン」に基づいた賑わい創出事業の推進			1
	20003	重点	旧サンブラザビルに関する権利集約の早期実現	C	C	1
	20004	重点	旧サンブラザビル・駐車場施設の公費投入も考慮した早期解体	C	C	1
	23018	重点	スマートシティへの拡張性を考慮した駅周辺再整備の推進			1
	23011	新規	市内中心部への国立大学工学部の誘致			10
	23012	新規	地元企業への投資等促進に寄与する補助や減税			7
	23013	新規	市道[沼ノ端勇弘線]の安全対策の実施 1. 拡幅整備 2. 白線・黄色線の表示			9
	23014	新規	防潮堤建設の検討			8
	20055	継続	勇弘前浜地区の整備活用	B	B	18
	20069	継続	新千歳空港の発着枠拡大に対応した受入体制の強化並びに利便性の向上(2次交通アクセスの充実)	B	C	19
	20070	継続	新千歳空港の滑走路延長の早期実現	B	C	19
	20075	継続	苫小牧東部地域の特性を活かした「物流・エネルギー・情報」を柱とした多彩な産業・プロジェクト誘致への支援(自動車・食・物流・エネルギー・ロボット開発等関連産業)	C	C	19
	20077	継続	苫小牧東部地域における食品流通・加工拠点形成への支援	C	C	19
	20117	継続	南北交通アクセス向上のためのJR線の市街高架化	D	C	20
	20118	継続	新千歳空港駅から苫小牧方面へのアクセス向上	B	C	20
女性会	23015	新規	保育・介護環境整備による女性の社会進出推進 介護・保育に関する支援制度の充実			10
青年部	23016	新規	食と観光プロジェクトの推進			15
	23017	新規	持続的な地域価値向上を図るための財源確保			16
	21010	継続	市内中小企業の産業振興と新産業創出を後押しする「ビジネスサポートセンター(仮称)」の設置	B	C	17
	22007	継続	児童発達支援事業の拡充	C	C	21
会議所	21001	重点	事業継続を図る中小・小規模事業者に対する事業継続や経営力強化に対する支援			2
	21005	重点	コロナ禍に立ち向かい、成長を目指して挑戦する中小・小規模事業者への支援			2
	21006	重点	安全・安心を確保した社会経済活動の再開支援			2
	23005	新規	北海道の電力供給が安定化するまで当面の原子力発電所活用			12
	23019	新規	市内大規模イベントへの民間活用の推進			15
	20043	継続	日本政策金融公庫苫小牧出張所の支店昇格	B	A	17
	20046	継続	苫小牧市中小企業創業サポート事業補助金の拡充	A	B	17
	20009	継続	苫小牧都市再生コンセプトプランにおけるプロジェクトの推進	D	C	22
	20007	継続	統合型リゾート誘致活動の継続北海道と連携したIRコンセプトの策定	D	C	22
	21009	継続	苫小牧市の特性を活かした新たな産業や事業の創出	B	C	18

●SDGs(Sustainable Development Goals:持続可能な開発目標)別索引

SDGsとは

- ・SDGs(Sustainable Development Goals:持続可能な開発目標)は、「誰一人取り残さない(leave no one behind)」持続可能でよりよい社会の実現を目指す世界共通の目標です。
- ・2015年の国連サミットにおいて全ての加盟国が合意した「持続可能な開発のための2030アジェンダ」の中で掲げられました。
- ・2030年を達成年限とし、17のゴールと169のターゲットから構成されています。



	目標1 〔貧困〕 あらゆる場所あらゆる形態の貧困を終わらせる		
	目標2 〔飢餓〕 飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養の改善を実現し、持続可能な農業を促進する		
	目標3 〔保健〕 すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する		
	目標4 〔教育〕 すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する		
NO	目次	2023年度 要望事項	P
20012	新規	介護・保育をはじめとするサービス業並びに飲食業に係る人材教育の充実 飲食業や一次産業従事者に対する人材教育の充実	10
23011	新規	市内中心部への国立大学工学部の誘致	10
20027	継続	多文化共生社会の実現へ向けた施策の推進	18

	目標5 [ジェンダー] ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児のエンパワーメントを行う		
NO	目次	2023年度 要望事項	P
20012	新規	介護・保育をはじめとするサービス業並びに飲食業に係る人材教育の充実 飲食業一次産業従事に係る人材教育の充実	10
23015	新規	保育・介護環境整備による女性の社会進出推進 介護・保育に関する支援制度の充実	10
	目標6 [水・衛生] すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する		
	目標7 [エネルギー] すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的なエネルギーへのアクセスを確保する		
NO	目次	2023年度 要望事項	P
21017	重点	苫小牧の地域特性を生かした発電・蓄電・供給施設の設置促進、並びにエネルギーの地産地消によるエネルギーコストの低減を目指した取り組みの検討	5
23004	新規	脱炭素社会に向けた立地企業による新たな取組に対する支援 並びに新産業の創出支援 1. 補助制度創設 2. 脱炭素よろず支援拠点の設置 3. 脱炭素社会実現に向けたロードマップの策定	11
23005	新規	北海道の電力供給が安定化するまで当面の原子力発電所活用	12
20032	継続	苫小牧市におけるカーボンリサイクル技術の利活用構想の策定	19

	目標8 〔経済成長と雇用〕 包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用(ディーセント・ワーク)を促進する		
NO	目次	2023年度 要望事項	P
21001、21005、21006	重点	コロナ禍での事業継続に向けた支援	2
23001	新規	苫小牧駅周辺への学生が交流できる商業集積のまちづくり計画の策定	6
23002	新規	苫小牧駅周辺への保育施設の拡充	6
23004	新規	脱炭素社会に向けた立地企業による新たな取組に対する支援並びに新産業の創出支援 1. 補助制度創設 2. 脱炭素よろず支援拠点の設置 3. 脱炭素社会実現に向けたロードマップの策定	11
23005	新規	北海道の電力供給が安定化するまで当面の原子力発電所活用	12
23007	新規	賑わい創出に係る行政手続きのワンストップ化	13
23008	新規	地産地消に取り組む事業者への支援	7
23012	新規	地元企業への投資等促進に寄与する補助や減税	7
23016	新規	食と観光プロジェクトの推進	15
23017	新規	持続的な地域価値向上を図るための財源確保	16
20004	継続	職業訓練法人苫小牧地方職業能力開発協会への協力支援	21
20007	継続	統合型リゾート誘致活動の継続 北海道と連携したIRコンセプトの策定	22
20009	継続	苫小牧都市再生コンセプトプランにおけるプロジェクトの推進	22
20024	継続	とまジョブ登録企業向けの合同企業説明会の開催等とまジョブの有効活用及び周知推進	21
20026	継続	介護・社会福祉法人への就職促進及び施設利用者の就業支援	21
20027	継続	多文化共生社会の実現に向けた施策の推進	18
20032	継続	苫小牧市におけるカーボンニュートラル社会の実現に向けた技術の利活用構想の策定	19
20034	継続	各種公共工事の早期発注並びに施工時期の平準化	17
20035	継続	働き方改革や経済状況に対応した公共事業発注の推進と発注金額の適正化	17
20038	継続	指定管理者に対する地場活用の推進	17

9 産業と技術革新の基盤をつくろう 	目標9 [インフラ、産業化、イノベーション] 強靱(レジリエント)なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る		
NO	目次	2023年度 要望事項	P
20086、20092、21008	重点	物流効率化に向けた港湾機能の強化・整備	4
21001、21005、21006	重点	コロナ禍での事業継続に向けた支援	2
23007	新規	賑わい創出に係る行政手続きのワンストップ化	13
23009	新規	苫小牧近海における水産物養殖事業の可能性調査・研究	14
23016	新規	食と観光プロジェクトの推進	15
23017	新規	持続的な地域価値向上を図るための財源確保	16
23019	新規	市内大規模イベントへの民間活用推進	15
20010	継続	車両通行量が多い跨線橋(緑・中野・港)の冬期間における交通安全対策(ロードヒーティング敷設、すべり止め舗装等)の実施	19
20011	継続	北海道運輸局室蘭運輸支局の苫小牧への移設	19
20027	継続	多文化共生社会の実現に向けた施策の推進	18
20032	継続	苫小牧市におけるカーボンニュートラル社会の実現に向けた技術の利活用構想の策定	19
20075	継続	苫小牧東部地域の特性を活かした「物流・エネルギー・情報」を柱とした多彩な産業・プロジェクト誘致への支援(自動車・食・物流・エネルギー・ロボット開発等関連産業)	19
20093	継続	苫小牧港の地理的優位性を生かした北極海航路の誘致	20
21009	継続	苫小牧市の特性を活かした新たな産業や事業の創出	18
21010	継続	市内中小企業の産業振興と新産業創出を後押しする「ビジネスサポートセンター(仮称)」の設置	17
21011	継続	定住者増加のための家族を伴った移住の促進	18
21012	継続	定住者増加のための大企業、IT企業などのサテライトオフィスおよび教育機関の誘致と移住の促進	18
21013	継続	定住者増加のためのワーケーションを契機とした移住者の獲得	18
21014	継続	市外企業の市内進出、移転及び支店設立等の検討に係る視察費用の負担制度創設	18
21016	継続	デジタル技術を活用した行政サービスの積極的な導入 市民のITリテラシー向上による情報格差解消に向けた取り組み推進	18
22002	継続	苫小牧市プレミアム付商品券事業の継続的な実施	17

	目標10 【不平等】 国内及び各国家間の不平等を是正する		
NO	目次	2023年度 要望事項	P
20027	継続	多文化共生社会の実現へ向けた施策の推進	18
21016	継続	デジタル技術を活用した行政サービスの積極的な導入 市民のITリテラシー向上による情報格差解消に向けた取り組み 推進	18
22006	継続	保育園・幼稚園の地域ニーズに対応した整備	21
22007	継続	児童発達支援事業の拡充	21
	目標11 【持続可能な都市】 包摂的で安全かつ強靱(レジリエント)で持続可能な都市及び人間居住を 実現する		
NO	目次	2023年度 要望事項	P
20001	重点	「苫小牧都市再生コンセプトプラン」に基づいた賑わい創出事業 の推進	1
20003	重点	旧サンプラザビルに関する権利集約の早期実現	1
20004	重点	旧サンプラザビル・駐車場施設の公費投入も考慮した早期解体	1
20064	重点	利便性向上に向けた道路整備等の推進	3
20086	重点	東港区機能進展のためのインフラ整備 ・上下水道設備の充実及び強化	4
20087	重点	通行車両の安全確保の為に鹿対策の実施	3
20092	重点	西港区中央北1号岸壁のエプロン・荷捌き地の整備	4
20115	重点	災害対応道路として、国道36号線と臨海北通の接続道路新設 の検討	3
21006	重点	コロナ禍に立ち向かい、成長を目指して挑戦する中小・小規模 事業者の後押し	2
21008	重点	周文ふ頭岸壁の早期整備	4
23018	重点	スマートシティへの拡張性を考慮した駅周辺再整備の推進	1
23001	新規	苫小牧駅周辺への学生が交流できる商業集積のまちづくり計画 の策定	6
23002	新規	苫小牧駅周辺への保育施設の拡充	6

NO	目次	2023年度 要望事項	P
23003	新規	バス停留所の環境改善	8
23007	新規	賑わい創出に係る行政手続きのワンストップ化	13
23010	新規	物流車両の安全確保のための整備	9
23012	新規	地元企業への投資等促進に寄与する補助や減税	7
23013	新規	市道[沼ノ端勇払線]の安全対策の実施	9
23014	新規	防潮堤建設の検討	8
23016	新規	食と観光プロジェクトの推進	15
23017	新規	持続的な地域価値向上を図るための財源確保	16
20007	継続	統合型リゾート誘致活動の継続 北海道と連携したIRコンセプトの策定	22
20009	継続	苫小牧都市再生コンセプトプランにおけるプロジェクトの推進	22
20010	継続	車両通行量が多い跨線橋(緑・中野・港)の冬期間における交通安全対策(ロードヒーティング敷設、すべり止め舗装等)の実施	19
20011	継続	北海道運輸局室蘭運輸支局の苫小牧への移設	19
20014	継続	公的津波避難施設設置の推進	18
20032	継続	苫小牧市におけるカーボンニュートラル社会の実現に向けた技術の利活用構想の策定	19
20033	継続	公共事業予算枠確保	17
20034	継続	各種公共工事の早期発注並びに施工時期の平準化	17
20035	継続	働き方改革や経済状況に対応した公共事業発注の推進と発注金額の適正化	17
20036	継続	地元企業への優先発注並びに地元受注率の向上	17
20038	継続	指定管理者に対する地場活用の推進	17
20043	継続	日本政策金融公庫苫小牧出張所の支店昇格	17
20046	継続	苫小牧市中小企業創業サポート事業補助金の拡充	17
20050	継続	繁華街・地域商業地区の整備促進 ②街路灯LED化の推進	18
20052	継続	店舗改装費補助金の利用要件の緩和	17

NO	目次	2023年度 要望事項	P
20054	継続	商業利用に対する空家等解体補助金の対象拡大	18
20055	継続	勇払前浜地区の整備活用	18
20057	継続	苫小牧停車場若草道線の一方通行の解除に向けた働きかけの推進	19
20058	継続	苫小牧登別通(仮称)の道道昇格と接続整備	19
20059	継続	美沢錦岡通の早期整備	19
20060	継続	臨海東通の早期整備	19
20062	継続	市道東部1条通の道道上厚真苫小牧線への接続	19
20065	継続	利便性を高める市内公共交通機関の交通体系の見直し	19
20069	継続	新千歳空港の発着枠拡大に対応した受入体制の強化並びに利便性の向上(2次交通アクセスの充実)	19
20070	継続	新千歳空港の滑走路延長の早期実現	19
20075	継続	苫小牧東部地域の特性を活かした「物流・エネルギー・情報」を柱とした多彩な産業・プロジェクト誘致への支援(自動車・食・物流・エネルギー・ロボット開発等関連産業)	19
20077	継続	苫小牧東部地域における食品流通・加工拠点形成への支援	19
20084	継続	北海道開発にかかる枠組みの堅持	17
20088	継続	函館税関コンテナ検査施設(X線検査場)の東港区での早期設置	20
20091	継続	東港区・西港区のうねり対策に関する関係機関への要請の強化	20
20093	継続	苫小牧港の地理的優位性を生かした北極海航路の誘致	20
20094	継続	市道東部南通線の路肩を含めた道路整備(高潮による通行止めの際の整備)	20
20095	継続	勇払橋の重量規制緩和に向けた安平川改修計画の早期策定(河口部)	20
20099	継続	キラキラ公園の憩いの場としての更なる日常利用促進及びイベント開催の促進	22
20103	継続	苫小牧市西側の観光資源(樽前山・アルテン)と民族共生象徴空間「ウポポイ」を連携した広域観光ルートの整備促進	22
20113	継続	札幌冬季オリンピック・パラリンピックのサテライト開催を視野に入れた白鳥王子アイスアリーナの改修	20
20117	継続	南北交通アクセス向上のためのJR線の市街高架化	20
20118	継続	新千歳空港駅から苫小牧方面へのアクセス向上	20
20121	継続	国道36号線の中野跨線橋及び明野南通の6車線化	20

NO	目次	2023年度 要望事項	P
21009	継続	苫小牧市の特性を活かした新たな産業や事業の創出	18
21010	継続	市内中小企業の産業振興と新産業創出を後押しする「ビジネスサポートセンター(仮称)」の設置	17
21011	継続	定住者増加のための家族を伴った移住の促進	18
21012	継続	定住者増加のための大企業、IT企業などのサテライトオフィス及び教育機関の誘致と移住の促進	18
21013	継続	定住者増加のためのワーケーションを契機とした移住者の獲得	18
21014	継続	市外企業の市内進出、移転及び支店設立等の検討に係る視察費用の負担制度創設	18
21016	継続	デジタル技術を活用した行政サービスの積極的な導入 市民のITリテラシー向上による情報格差解消に向けた取り組み推進	18
22002	継続	苫小牧市プレミアム付商品券事業の継続的な実施	17
22003	継続	苫小牧中央インターチェンジと国道276号線の接続地点への感知式信号機設置	19
22004	継続	国道36号線 苫小牧錦岡～白老社台間の中央分離帯設置	19
 目標12 [持続可能な消費と生産] 持続可能な消費生産形態を確保する			
NO	目次	2023年度 要望事項	P
20077	継続	苫小牧東部地域における食品流通・加工拠点形成への支援	19
20105	継続	地産地消の推進にかかる事業への支援	22
 目標13 [気候変動] 気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる			
 目標14 [海洋資源] 持続可能な開発のために、海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する			
NO	目次	2023年度 要望事項	P
23009	新規	苫小牧近海における水産物養殖事業の可能性調査・研究	14

15 陸の豊かさを 守ろう 	目標15 [陸上資源] 陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する
16 平和と公正を すべての人に 	目標16 [平和] 持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する
17 パートナリシップで 目標を達成しよう 	目標17 [実施手段] 持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する